

燈籠人形の 操り方

人形制作の次は操り方の練習が始まります。昔は、中宿の4つの地区で人形作りから操作まで分担が決まっていたのですが、今は一緒に行っています。

人形の手足、頭に付けた糸は舞台天井からつるした框の穴に通してから下げ、舞台下の奈落にいる操り手たちが協力して動かします。



人形の操作は複数人で行い、多いものでは8人で、20本近い糸を操ります。引っ張り合いにならないよう、互いに息を合わせてタイミングを図ります。横に動かす場合は、舞台上にワイヤーを張り、引っ張ります。

一人では演じられない燈籠人形。それぞれの操り手が思った通りに人形を動かせるようになるまで、練習は公演直前まで続きます。



公演に欠かせない お囃子

燈籠人形には人形だけでなく、場面を盛り上げる軽快なお囃子も欠かせません。中宿の子どもたちは、保存会の大人の指導のもと、夏休み前から笛と太鼓の練習を続けています。

小さいころからメロディに親しみ、覚えることで伝統とともに、地域の誇りも次世代に伝わっていきます。お囃子は10月に行われる地区のお祭りで人形を乗せた山車の上で披露します。